

千葉県東葛・葛南地区工業用水道事業の紹介

○事業の趣旨

本地区の工業用水道事業は、地盤沈下対策として、地下水から表流水へ工業用水の水源の転換を図り、揚水規制の代替用水供給を目的として実施したものである。

○事業の経緯

本地区は、県内では戦前から産業の進んだ地域であり、さらに第2次世界大戦時に疎開し定着した企業も多いが、その大半は中小企業であった。

昭和30年代に入ると県は、昭和31年千葉県産業振興3カ年計画、昭和33年京葉工業地帯造成計画を策定し企業立地を図り、我が国の産業経済と共に本地区も急速に発展を遂げた。

一方、工業の発展のために不可欠の工業用水についてはほとんど地下水に依存しており、加えるに都市ガス供給会社による天然ガスの採取が相まって、本地区の地盤沈下は進行していった。

地盤沈下が大きな社会問題となることが予想され、早急に地盤沈下対策を立てる必要に迫られたことから、県は昭和41年地盤沈下対策事業として葛南地区工業用水道事業に着手し、工業用水の水源を地下水から表流水へ転換していった。

その後、内陸部へ地盤沈下が広がりつつあったので、昭和47年東葛地区工業用水道事業の建設に着手し、昭和56年から順次給水を開始した。

以来2つの事業として展開していたが、供給区域がほぼ重複しており、施設なども一部共用していることから、経営の安定化、効率化を図るため、平成16年4月、両事業を統合し、名称を東葛・葛南地区工業用水道事業とした。

○工業用水道施設の概要

利根川水系の霞ヶ浦導水事業及び利根川河口堰の開発水を水源とし、都県境を流れる同水系江戸川で流況調整（北千葉導水事業）をしたうえ東京湾に近い下流部で取水し、南八幡浄水場で浄水し

た後、一部習志野給水場、柏井給水場を経由して、受水企業に給水している。

現在の給水能力は、日量127,200m³である。

○給水系統を含む給水区域図



○需要者の概要

(平成18年9月1日現在)

業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
食料品製造	33	14,608
飲料・飼料	4	13,130
印刷業	2	700
化学工業	9	6,420
石油・石炭	1	1,200
プラスチック製品	2	1,210
窯業・土石	11	5,520
鉄鋼業	11	33,210
非鉄金属	4	5,890
金属製品	10	17,020
一般機械	2	900
電気機械	1	3,300
輸送用機械	2	290
電気・ガス	2	150
その他の製造	3	3,047
非製造業	15	7,485
計	112	113,830

○売水可能水量

13,320m³/日

○地区の特徴

千葉県工業用水道事業の中で唯一地盤沈下対策事業の採択を受けて実施した事業である。

当地区は東京に隣接し、交通の利便性が良いことから、物流関連、食品関連の企業の集積度が高い。

また、近年都市化が進み、内陸部では住工混在地域となっている。

○千葉県企業庁工業用水部の

ホームページアドレス

http://www.pref.chiba.jp/kigyou/d_kanri/kousui/index.html